

平成29年度 事業報告書

社会福祉法人マザアス

目次		頁
I.理事長報告		3
II.現況報告		4
III.経営状況		14
IV.社会福祉法人マザアス	法人本部	18
V.高齢者福祉総合施設	マザアス東久留米	20
VI.高齢者福祉総合施設	マザアス日野	31
VII.地域密着型複合施設	マザアス新宿	43

I.理事長報告

社会福祉法人マザアス 高原敏夫

年度の上半期は、社会福祉法人制度改革への対応に忙殺された。幸い早目に東京都の

指導検査があつて、幾つかの課題を指摘されたが、当面の関門を乗り越えることができた。これもいち早く法人本部の体制を整えて対応できたことにあるであろう。この改革に伴って、理事や評議員の何人かは継続してお願い出来なくなったのは残念ではあるが、今までのご協力に心からお礼を申し上げたい。

改革への対応はこれからが本番でさまざまな課題が目の前に迫ってくる。地域には孤立、貧困等新しい課題やニーズに対応することが、社会福祉法人にも期待されている。これが「地域共生社会の実現に向けた取組の推進」であるが、高齢者福祉を主体とした法人は財政と人材の面で積極的に対応できないのが残念である。しかし、各拠点事業所では地域に対する関心が高まって、身近なところで、できることから努力している姿を目にして感謝している。

改革を前に「社会福祉法人は儲け過ぎ」という批判があつたが、国から示され方式で「社会福祉充実残額」を計算してみると、当法人で△14億円余という結果になった。

厳しい状況のなかで清瀬駅前に「就労継続支援 B 型事業所」の開設は特筆すべきことでしょう。また特別養護老人ホームマザアス東久留米では12月23日天皇誕生日に因んで天皇陛下より「御下賜金」いただく機会を得た。これは過去20年以上努力してきたことが評価された結果だと地域のボランティア、利用者、ご家族、職員共々喜んでいる。

事業活動収支差額の過少さと求人難には相変わらず課題があるが、与えられた環境は劇的に好転することは考えられない。サービス内容を優先しながら業務の合理化、人材配置の見直しする時期に来ているようだ。

待ちの姿勢、指示待ちではなく地域に目を向け、社会福祉法人が期待されている役割を果たしたいものである。

Ⅱ.現況報告（平成 30 年 3 月 31 日現在）

1. 基本情報

所轄庁	東京都
法人名	社会福祉法人 マザアス
主たる事務所の所在地	〒203-0004 東京都東久留米市氷川台二丁目 5 番 7 号
電話番号	042-477-7261
FAX 番号	042-477-7500
ホームページアドレス	http://www.moth.or.jp
メールアドレス	office@moth.or.jp
設立認可年月日	平成 6 年 10 月 18 日
設立登記年月日	平成 6 年 10 月 19 日
代表者氏名	高原 敏夫
就任年月日	平成 26 年 10 月 20 日

2. 社会福祉事業

①（老人福祉）第 1 種社会福祉事業（3 施設）

施設名・事業所名（事業所番号）	定員
所在地	事業開始年月日
特別養護老人ホーム マザアス東久留米（1374800074）	80
東京都東久留米市氷川台二丁目 5 番 7 号	平成 7 年 5 月 8 日
特別養護老人ホーム マザアス日野（1373500139）	102
東京都日野市万願寺一丁目 1 6 番 1 号	平成 11 年 5 月 1 日
地域密着型特別養護老人ホーム マザアス新宿（1390400107）	29
東京都新宿区新宿七丁目 3 番 3 1 号	平成 22 年 5 月 1 日

②（老人福祉）第 2 種社会福祉事業（16 事業所）

施設名・事業所名（事業所番号）	定員
所在地	事業開始年月日
デイサービスセンター マザアス氷川台（1374800181）	（介護・予防）50 （認知症）12
東京都東久留米市氷川台二丁目 5 番 7 号	平成 7 年 7 月 1 日
デイサービスセンター マザアス多摩川苑（1373500287）	（介護・予防）45

	(認知症) 12
東京都日野市万願寺一丁目16番1号	平成11年5月1日
デイサービスセンター マザアス大門 (1374800322)	(介護) 10 (予防) ①9 ②9
東京都東久留米市大門町二丁目10番5号	平成11年7月1日
ショートステイ マザアス東久留米 (1374800207)	10
東京都東久留米市氷川台二丁目5番7号	平成7年7月1日
ショートステイ マザアス日野 (1373500139)	18
東京都日野市万願寺一丁目16番1号	平成11年6月1日
ショートステイ マザアス新宿 (1374801106)	3
東京都新宿区新宿七丁目3番31号	平成22年5月1日
ヘルパーステーション マザアス氷川台 (1374800199)	
東京都東久留米市氷川台二丁目5番7号	平成8年7月1日
ヘルパーステーション マザアス多摩川苑 (1373500527)	
東京都日野市万願寺一丁目16番1号	平成12年7月1日
グループホームたきやま(1374800371)	9
東京都東久留米市前沢五丁目25番14号	平成11年12月15日
グループホームひかわだい (1374800553)	9
東京都東久留米市氷川台二丁目6番6号	平成14年3月1日
グループホームたまだいら (1373501327)	9
東京都日野市多摩平二丁目13番14号	平成17年9月1日
グループホームおがわ (1394300014)	18
東京都小平市小川一丁目113番8号	平成18年7月1日
グループホームつつじ (1390400123)	18
東京都新宿区新宿七丁目3番31号	平成22年5月1日
小規模多機能ホーム みなみだいら (1393500036)	(登録) 29
東京都日野市南平三丁目10番2号	平成20年9月1日
小規模多機能ホームさくら (1390400115)	(登録) 29
東京都新宿区新宿七丁目3番31号	平成22年5月1日
小規模多機能ホームさかえまち (1393500069)	(登録) 29
東京都日野市栄町二丁目17番1号	平成23年5月1日

③ (障害福祉) 第2種社会福祉事業 (1事業所)

施設名・事業所名 (事業所番号)	定員
所在地	事業開始年月日
ヘルパーステーション マザアス多摩川苑 (1313500678)	
東京都日野市万願寺一丁目16番1号	平成23年11月1日
就労継続支援B型事業所マザアス (1314400639)	
東京都清瀬市松山一丁目4番20号203	平成29年7月1日

④ 公益事業 (5事業所)

施設名・事業所名 (事業所番号)	定員
所在地	事業開始年月日
居宅介護支援事業所 多摩川苑 (1373500030)	
東京都日野市万願寺一丁目16番1号	平成12年4月1日
居宅介護支援事業所 マザアス氷川台 (1374800504)	
東京都東久留米市氷川台二丁目5番7号	平成13年6月1日
東久留米市東部地域包括支援センター・本部 (1304800012)	
東京都東久留米市大門町二丁目10番5号 東京都東久留米市氷川台二丁目5番7号グループホームひかわだい内 (本部)	平成18年4月1日
日野市地域包括支援センター 多摩川苑 (1303500092)	
東京都日野市万願寺一丁目16番1号	平成21年4月1日
多摩若年性認知症総合支援センター	
東京都日野市大坂上一丁目30番18号	平成28年11月10日

3. 組織

① 理事 (定員6 現員6)、監事 (定員2 現員2)

役職名	氏名	職業	任期	理事会出席回数/5
理事長	高原 敏夫	社会福祉法人マザアス理事長	~H31.6	5
理事	衣川 輝夫	社会福祉法人マザアス常務理事	~H31.6	5
理事	千先 勉	牧師	~H31.6	5
理事	松澤 雅子	マザアス東久留米施設長	~H31.6	5
理事	古谷 晋	マザアス日野施設長	~H31.6	5
理事	石原 正弘	ミサワホーム株式会社	~H31.6	5
監事	吉田 剛	吉田税務会計事務所	~H31.6	5
監事	我謝 悟	シャローム東久留米施設長	~H31.6	5

② 評議員（定員 7 名 現員 7 名）

役職名	氏名	職業	任期	評議員会 出席回数 /1
評議員	児玉 桂子	日本社会事業大学名誉教授	H29.4～H33.4	1
評議員	矢谷 令子	一般財団法人日本リハビリテーション 振興会理事	H29.4～H33.4	1
評議員	上田 健	社会福祉法人三育会理事長	H29.4～H33.4	1
評議員	古賀 誉章	宇都宮大学地域デザイン科学部准教授	H29.4～H33.4	1
評議員	細谷 祥子	都議会議員	H29.4～H33.4	0
評議員	鈴木 純子	明治学院大学キリスト教研究所協力研 究員	H29.4～H33.4	1
評議員	村本 英那	特別養護老人ホームシャローム横浜施 設長	H29.4～H33.4	1

③ 施設長

施設名	氏名	就任年月日
高齢者福祉総合施設マザアス東久留米	松澤 雅子	H25.6.1
高齢者福祉総合施設マザアス日野	古谷 晋	H28.7.1
地域密着型複合施設マザアス新宿	高岡 宏	H28.3.1

④ 職員数（平成 30 年 3 月末日）

	常勤/専従	非常勤		合計
			換算数	換算数
法人本部	1	1	0.6	1.6
東久留米	81	109	56.6	137.6
日 野	116	69	29.8	145.8
新 宿	46	29	15.0	61.0
合 計	244	208	102	346
	(職員総数 452)			

⑤ 職員平均年齢/平均勤続年数（平成 30 年 3 月末日）

拠点名（開設年度）	平均年齢	平均勤続年数
東久留米（H7）	51.5	6.9
日 野（H11）	43.9	7.4
新 宿（H22）	46.1	4.0
法人全体	47.3	6.1

⑥ 資格取得状況（人数）（平成30年3月末日） ※重複含む

	社会福祉士	介護福祉士	介護支援 専門員	看護師	准看護師
東久留米	9	69	16	8	3
日 野	12	94	28	11	7
新 宿	6	24	7	5	0
合 計	27	187	51	24	10

⑦ 理事会

開催年月日	出席 者数 ／6	監 事 出 欠 有 無	決議事項
H29.05.30	6	有	1. 平成28年度事業報告 2. 平成28年度各会計決算報告 3. 社会福祉充実残高 4. 役員報酬規程の改定 5. 新理事・新監事の選任 6. 定期評議員会の招集 7. 保有自動車管理規程の改定 8. 職員給与規程の改定
H29.06.15	6	有	1. 理事長、常務理事の選任 2. 6月賞与 3. 新就業管理システムの導入 4. キャリアパス見直しに関わるコンサルタントの導入 5. マザアス日野中央監視装置一部機器（CP盤）と省エネ機器設置工事
H29.10.18	6	有	1. 土地購入 2. 福祉医療機構への借入申し込み 3. 借入に関わる担保提供 4. 連帯保証人不要制度の利用 5. 日野市土地購入のための借入返済 6. 就労継続支援 B 型事業所マザアス運営規程
H29.11.30	6	有	1. 12月賞与 2. 補正予算 3. 各就業規則への無期転換職員の追加改定 4. 就業規則（正規）の休職規程の改定 5. 育児介護休業規程の改定
H30.03.29	6	有	1. 平成29年度第二次補正予算 2. 平成30年度事業計画書 3. 平成30年度当初予算 4. 就業規則の改定 5. 特定個人情報保護規程の改定 6. 運営規程の改定 7. マザアス東久留米大規模改修コンサルタント契約 8. マザアス東久留米給食業務委託契約内容見直し 9. マザアス日野清掃業務委託業者の契約 10. マザアス日野カーテッククリーニング業者リース契約

⑧ 評議員会

開催年月日	出席者数 /7	監事出欠 有無	決議事項
H29.06.15	6	有	1. 平成28年度決算報告 2. 理事及び監事の報酬の額、および理事及び監事並びに評議員に対する報酬等の支給基準（役員等報酬規程） 3. 新理事および新監事の選任

⑨ 監事監査

監査年月日	監査者	監査報告の有無	指摘事項	改善事項
H29.5.19	今村 忍 我謝 悟	有	無	無

4. 資産管理

不動産の 所有状況	所在地	面積 (㎡)	評価額 (千円)	担保提供 の有無	
基本財産	土地	東京都東久留米市氷川台 2 丁目 416 番地 1.3.4	5204.03	1,526,900	無
		東京都日野市万願寺一丁目 16 番地 1.2	3301.85	759,000	有
		東京都日野市万願寺一丁目 16 番地 3	1090.00	212,550	有
	建物	東京都東久留米市氷川台 2 丁目 416 番地 1	3939.09	573,416	無
		東京都日野市万願寺一丁目 16 番地 1	6356.93	836,651	有
		東京都新宿区新宿 7 丁目 3-31	2946.38	422,171	有
合計			4,330,689		

5. その他

① 情報公開

・法人ホームページ、法人広報誌、玄関ロビーに設置等の方法により公開

② 外部審査等

日付	項目	備考
平成 29 年 7 月	第三者評価 (利用者調査)	マザアス東久留米 (特養)
平成 29 年 7 月	東京都福祉保健局による 実地検査	法人本部 マザアス東久留米・日野
平成 29 年 8 月	第三者評価	マザアス日野 (特養)
平成 29 年 8 月	第三者評価	グループホームたまだいら
平成 29 年 9 月	日野市高齢福祉課による 調査	小規模多機能ホームさかえまち

平成 29 年 10 月	第三者評価 (利用者調査)	グループホームたきやま
平成 29 年 10 月	第三者評価 (利用者調査)	グループホームひかわだい
平成 29 年 11 月	新宿区による実地指導	マザアス新宿拠点
平成 29 年 12 月	東久留米消防署による 立入検査	マザアス東久留米(特養・デイ)
平成 29 年 12 月	東京都国民健康保険団 体連合会による調査	グループホームつつじ
平成 29 年 12 月	第三者評価 (ひとまち社)	小規模多機能ホームさかえまち
平成 30 年 1 月	第三者評価 (利用者調査)	グループホームおがわ
平成 30 年 3 月	東村山税務署による 税務調査	マザアス東久留米拠点
平成 30 年 3 月	新宿清掃事務所による 検査	マザアス新宿拠点

③ 第三者評価

受審施設・事業所名	H29	H28	H27	H26	H25
特別養護老人ホーム マザアス東久留米	○	○	○	◎	○
特別養護老人ホーム マザアス日野	◎	○	◎	—	◎
グループホームひかわだい	○	○	○	○	○
グループホームたきやま	○	○	—	○	○
グループホームおがわ	○	○	○	—	○
グループホームたまだいら	◎	—	◎	—	○
グループホームつつじ	◎	—	◎	◎	◎
小規模多機能ホームみなみだいら	○	◎	○	—	○
小規模多機能ホームさかえまち	○	◎	○	○	○
小規模多機能ホームさくら	○	—	—	◎	◎

◎：組織マネジメント+サービス項目

○：サービス項目

—：未受審

④ 苦情解決件数〔第三者委員会提出件数〕 () は苦情受付件数

拠点名	H29	H28	H27	H26	H25
東久留米	7(7)	10 (10)	3 (3)	15 (15)	13 (13)
日 野	4(6)	9 (11)	5 (5)	5 (5)	3 (3)
新 宿	1 (1)	4 (4)	6 (6)	3 (3)	2 (2)

⑤ 事故件数〔行政報告件数：感染症含む〕

拠点名	H29	H28	H27	H26	H25
東久留米	9	6	9	20	24
日 野	33	26	22	15	15
新 宿	5	3	3	4	2

⑥ 実習生の受け入れ（年間延べ受け入れ人数）

拠点名	H29	H28	H27	H26	H25
東久留米	119	296	370	281	312
日 野	184	150	308	683	600
新 宿	290	227	19	1	0

⑦ ボランティア活動（年間延べ活動人数）

拠点名	H29	H28	H27	H26	H25
東久留米	2,473	2,489	2,412	2,599	2,574
日 野	1,597	1,746	1,716	1,942	1,750
新 宿	1176	757	1,014	754	381

⑧ 外部研修（参加延べ人数）

拠点名	H29	H28	H27	H26	H25
東久留米	96	57	51	91	75
日 野	154	139	134	115	138
新 宿	9	41	18	14	27

⑨ 内部研修（実施回数）

拠点名	H29	H28	H27	H26	H25
東久留米	13	17	20	28	26
日 野	24	19	16	9	14
新 宿	19	21	54	63	63

* 実践報告会含む（勉強会除く）

海外研修（人数）

拠点名	韓 国	アメリカ	合 計
本部（理事・評議員含む）	2	1	3
東久留米	0	1	1
日 野	1	0	1
新 宿	1	0	1
合 計	4	2	6

⑩ 外部発表

拠点名	内容
東久留米	アクティブ福祉 in 東京 '17「ご利用者が主体的に運動できる環境づくり」 平成 29 年 9 月 27 日 東京都社会福祉協議会
東久留米	高齢者施設における看取り体制構築推進のためのシンポジウム 基調講演テーマ「看取りケアの流れとチームケア」

	平成 29 年 12 月 16 日 和歌山県田辺保健所
東久留米	全国老人福祉施設大会 福島大会 「医療と介護の連携 ～看取りケア～」 平成 29 年 11 月 4 日～5 日 全国老人福祉施設協議会
東久留米	就労支援と農福連携セミナー 平成 29 年 12 月 2 日 帝京平成大学
日 野	「アクティブ福祉 in 東京' 17」 「特養から自宅への取り組み」

6. 外部団体活動（理事長/施設長）

高原敏夫：理事長

役員	1	財団法人愛敬福祉支援財団理事
	2	社会福祉法人フロンティア福祉会理事
	3	関東ブロック老人福祉協議会相談役
	4	東京都社会福祉協議会高齢者施設福祉協議会顧問
	5	東京都社会福祉協議会法人協議会副会長
	6	社会福祉法人三育ライフ評議員
	7	東京都社会福祉協議会総合企画委員会委員
	8	東京都福祉施設経営指導事業連絡会議委員
	9	東京都社会福祉法人専門家会議委員
	10	全国老人福祉施設社会福祉協議会老施協総研運営委員
	11	医療法人アドベンチスト会評議員

松澤雅子：東久留米施設長

役員	1	東久留米市社会福祉協議会 評議員
	2	清瀬市障害支援区分認定審査会委員
	3	社会福祉法人 東京アフターケア協会評議員

古谷晋

役員	1	日野市社会福祉協議会評議員
	2	日野市介護保険認定審査会
	3	日野市地域保健協議会
	4	日野市介護保険関連施設連絡協議会会長
	5	日野市介護保険運営協議会
	6	日野市地域包括支援センター運営協議会
	7	日野市地域密着型サービス運営委員会
	8	日野市在宅高齢者療養推進協議会

高岡宏：新宿施設長

役員	1	東京都認知症介護指導者
	2	新宿区地域包括支援センター等運営協議会委員
	3	新宿区大久保地区社会福祉協議会部会委員
講師	1	東京都認知症介護実践者研修
	2	東京都認知症介護リーダ-研修
	3	東京都小規模多機能型サービス等計画作成担当者研修

来島みのり：日野副施設長

役員	1	東京都地域密着型協議会東京都小規模多機能型居宅介護協議会事務局長
	2	東京都高齢者保健福祉施策推進委員会調査検討部会 委員
	3	南多摩医療圏認知症疾患医療・介護連携協議会
	4	北多摩医療圏認知症疾患医療・介護連携協議会
講師	1	東京都主任介護支援専門員資格更新研修
	2	東京都認知症介護研修小規模多機能型居宅介護計画作成担当者研修
	3	東京都地域密着型協議会東京都小規模多機能型居宅介護協議会各研修

7. コンプライアンス委員会

10/26（木）：第1回コンプライアンス委員会開催

USB紛失について（本部）

職員の盗難について（新宿）

ご利用者の事故の対処について（日野）

ケアプラン作成について（日野）

2/26（月）：第2回コンプライアンス委員会開催

新宿拠点における新宿区の実地指導（H29.11.15）において、介護保険請求上の法令違反が判明し、文書指導となった件

Ⅲ.平成 29 年度 経営状況

1. 離職率

		H29. 4. 1現 在労働者 数	H29年度中 の退職者 数	離職率	H28. 4. 1現 在労働者 数	H29年度中 の退職者 数	離職率
法人全体	常勤労働者	256	39	15.2%	241	27	11.20%
	常勤労働者（上記） のうち正規職員	236	38	16.1%	218	22	10.10%
東久留米	常勤労働者	82	5	6.1%	77	6	7.80%
	常勤労働者（上記） のうち正規職員	72	5	6.9%	64	3	4.70%
日野	常勤労働者	127	26	20.5%	123	13	10.60%
	常勤労働者（上記） のうち正規職員	119	25	21.0%	115	11	9.60%
新宿	常勤労働者	47	8	17.0%	41	8	19.50%
	常勤労働者（上記） のうち正規職員	45	8	17.8%	39	8	20.50%

・常勤労働者とは、勤務形態について事業所の定める所定労働時間を全て勤務する職員をいう。（非正規職員を含む）

・正規職員とは就業形態として雇用期間の定めのない職員をいう。

2. バイタルデータ (年度比較)

サービス種別	事業所名	定員							H29年度	
			H29 実績	H28 実績	H27 実績	H26 実績	H25 実績	H24 実績	数値目標	対数値目標 達成率
特別養護老人ホーム 月平均利用率(%)	東久留米	80	97.6	97.4	98.3	97.7	97.0	96.9	98.0	99.6
	日野	102	96.2	95.0	92.7	96.1	96.1	96.5	96.5	99.6
	新宿	29	97.7	99.3	98.0	98.9	97.4	97.6	98.0	99.7
特別養護老人ホーム 平均要介護度	東久留米	80	4.1	4.1	4.0	4.0	4.0	3.9		
	日野	102	4.1	4.1	4.1	4.1	4.1	4.0		
	新宿	29	4.6	4.6	4.6	4.6	4.6	4.5		
短期入所生活介護 月平均利用率(%)	東久留米	10	82.2	87.8	78.1	83.4	99.8	98.8	88.0	93.4
	日野	18	68.3	74.4	70.6	75.0	81.8	83.3	75.0	91.1
	新宿	3	86.6	88.6	96.1	94.3	72.5	77.4	98.0	88.3
介護職員比率 介護職員1人あたりの利用者数 定員ベース	東久留米	—	2.12	2.13	1.82	1.87	1.76	1.83		
	日野	—	2.28	2.27	2.39	2.27	2.34	2.14		
	新宿	—	1.74	1.70	1.43	1.40	1.40	1.50		
通所介護(予防含む) 係数を掛けた延べ利用者数	氷川台	50	605.9	598.7	674.2	681.0	665.3	754.3	700.0	86.6
	大門	10	259.6	284.2	304.0	275.2	211.1	230.6	10人/日	
	多摩川苑	45	872.9	891.9	889.2	1021.8	967.1	967.9	910.0	95.9
通所介護(予防・総合) 実利用人数	氷川台	—	13.1	13.3	10.7	8.4	5.7	3.3		
	大門	9/9	39.6	42.0	46.7	42.8	33.4	34.7		
	多摩川苑	—	25.4	22.6	27.9	32.1	34.5	30.5		
認知症対応型通所介護 月間平均利用人数	氷川台	12	4.7	4.1	4.7	6.4	5.2	5.8	8.0	58.9
	多摩川苑	12	6.3	7.7	6.5	6.5	6.0	5.9	8.0	78.7
配食サービス(自費含) 日平均配食数(食)	大門	—	26.5	31.2	37.9	32.7	30.7	27.8		
	多摩川苑	—	54.0	51.0	48.8	53.3	51.8	49.6		
訪問介護サービス 上段:(介護)のみ(自費含) 中段:(予防・総合)のみ 下段:(障害+市施策)のみ	氷川台	—	601.0	496.5	503.7	535.8	558.0	614.8	610.0	128.8
		—	184.8	121.9	121.8	96.7	83.9	101.9		
	多摩川苑	—	262.4	291.5	335.1	382.6	367.8	442.5	450.0	92.5
		—	137.0	120.2	116.5	124.1	115.9	91.6		
居宅及び地域包括 要介護認定調査件数(件)	氷川台	—	3.8	4.9	4.9	4.6	4.0	2.4		
	日野包括	—	3.6	7.2	3.8	3.5	2.8	7.2		
	多摩川苑	—	7.3	8.9	9.2	4.6	6.5	5.1		
居宅介護支援 給付管理者数(件)	氷川台	—	150.2	136.1	134.9	130.4	128.1	124.6	140.0	121.9
	多摩川苑	—	122.8	111.8	104.7	58.9	33.4	51.5	145.0	109.4
居宅介護支援(予防) 給付管理者数(件)	氷川台	—	20.5	21.7	20.5	16.3	23.0	17.4		
	多摩川苑	—	35.8	22.7	20.8	12.8	6.8	5.5		
地域包括支援センター 予防給付管理者数(件)	東部	—	307.4	289.6	260.7	220.2	189.6	182.2	300.0	
	多摩川苑	—	176.1	155.3	74.8	77.5	68.8	82.2	150.0	
グループホーム 月平均利用率(%)	たきやま	9	99.8	99.8	98.8	98.8	96.4	89.2	98.5	101.4
	ひかわだい	9	98.8	97.7	95.8	96.6	98.7	96.5	98.5	100.3
	おがわ	18	98.1	98.2	90.1	97.5	97.3	96.3	98.5	99.6
	多摩平	9	98.1	96.9	95.4	97.6	92.4	92.0	95.0	103.2
	つつじ	18	98.0	98.6	99.8	99.5	99.2	97.3	98.0	100.0
小規模多機能 登録者数(人)	南平	29	24.1	23.0	25.6	23.0	24.6	24.7	24.0	100.3
	栄町	29	22.3	23.1	22.3	24.3	24.7	25.0	24.0	93.1
	さくら	29	23.5	23.8	25.2	24.5	22.1	22.7	27.0	87.0
多摩若年性認知症総合支援C 相談件数	多摩	—	8.2	173	—	—	—	—		
		—	210.4		—	—	—	—		
清瀬就労B型	登録者数		18.0						15.0	120.0%
	1日平均		3.6						13.0	28.0%

3. 法人単位の資金収支の状況（資金収支計算書）

項目	H29 金額（千円）	H28 金額（千円）
事業活動資金収支差額	106,538	108,134
施設整備等資金収支差額	▲ 74,734	▲ 66,576
その他の活動資金収支差額	▲ 11,657	5,130
当期資金収支差額	20,147	46,688
前期末資金収支差額	710,862	661,365
当期末支払資金残高	731,008	710,862

4. 法人単位の事業活動の状況（事業活動計算書）

項目	H29 金額（千円）	H28 金額（千円）
サービス活動増減差額	26,281	38,232
サービス活動収益	2,194,174	2,123,985
サービス活動費用	2,167,893	2,085,753
(減価償却費)	152,266	155,031
(国庫補助金等特別積立金取崩額)	▲ 90,701	▲ 96,099
サービス活動外増減差額	6,918	8,602
サービス活動外収益	23,928	26,732
サービス活動外費用	17,010	18,130
特別増減差額	921	▲ 20
特別収益	114,662	119,233
特別費用	113,741	119,253
当期活動増減差額	34,120	46,814
前期繰越活動増減差額	701,953	639,101
当期末繰越活動増減差額	736,073	685,916
基本金取崩額	0	0
その他の積立金取崩額	0	13,230
その他の積立金積立額	0	0
次期繰越活動増減差額	736,073	699,146

5. 法人単位の資産等の状況（貸借対照表）

項目	H29 金額（千円）	H28 金額（千円）
資産の部	5,682,177	5,512,255
流動資産	860,333	803,626
固定資産	4,821,843	4,708,629
負債の部	984,434	831,770
流動負債	286,326	251,002
固定負債	698,109	580,768
純資産の部	4,697,742	4,680,485
減価償却累計額	3,899,729	3,744,165

6. 積立金の状況

施設名	積立目的	H29 度末時点の 積立金額（千円）
マザアス東久留米	なし	0
マザアス日野	施設整備・修繕	10,916
マザアス新宿	なし	0

7. 関連当事者との取引の内容

（該当取引なし）

8. 準拠している会計基準

社会福祉法人新会計基準

9. 地域福祉ニーズへの対応状況

事業概要	事業開始年度
介護保険サービス等における低所得者の利用者負担減免	H17
地域の単身高齢者等を対象とした見守り配食サービス等の実施	H18
地域の単身高齢等を対象とした各種相談事業の実施	H7
災害時における各種支援活動の実施	H13
他法人との連携による人材育成事業	H26
若年性認知症の方への支援	H21
認知症の方やご家族等、地域の方向けの認知症カフェ事業実施	H27
生活困窮者就労訓練事業の実施	H27

IV社会福祉法人マザアス 法人本部

1 平成 29 年度総括

福祉に対するニーズは多様化・複雑化が進み、公益性と非営利性を備えた社会福祉法人には、その役割が問われています。社会福祉法人には、社会福祉事業のサービス提供の中心的な役割とともに、他の事業主体では対応が難しい福祉ニーズを充足し、地域福祉を推進することが期待されています。こうした役割や期待に応えるべく、法人本部事務局では、改定社会福祉法への対応と併せて、以下の項目に取り組み、法人の体力強化を目指してきました。

① ISO9001-2015 年度版の認証取得準備

準備を完了し、平成 30 年 4 月に審査を受審しました。6 月の審査結果を待っている状態です。

② 介護職員初任者研修事業の立ち上げ

平成 30 年 4 月開校予定でしたが、保険者等の実地検査・指導が連続して入り事業立ち上げ対応に支障を来した結果、次年度継続計画とした。平成 30 年 9 月開校予定となっています。

③ 事業継続に必要な財産保有のための予算管理の強化

スケジュールに合わせて実施したが、管理する方もされる方も予算管理に対する姿勢が十分とは言えませんでした。半期決算を終えたのち一次補正予算を組みましたが、当初予算との乖離が大きい状態でした。成果指標としての経常増減差額率 5%には及ばず 1.57%となりました。

④ キャリアパスの明確化

キャリアパスの明確化を図るべく松田綜合法律事務所及び船井総研のコンサルティングに委託し実質 6 カ月ほどの期間内ではほぼ完成しました。理事会承認を経て平成 30 年 4 月より実施する予定です。今後も逐次見直しを図ります。

⑤ 指導検査での文書指摘ゼロの達成

東京都の指導検査を想定し、拠点間での自己点検を行うことにより、問題点の洗い出しを行う予定でした。しかしながら、見込みより早く指導検査が入り、洗い出しを行うことなく、指導検査を受けることとなりました。指導検査では法人全体で 8 項目の指摘を受け、改善を行いました。

⑥ 給与の本部への一元化

各拠点の協力により、平成30年1月より新システムを稼動しています。

今後は、給与周辺業務の一元化を進めていく予定です。

V 高齢者福祉総合施設 マザアス東久留米

1 平成 29 年度総括

東久留米拠点における平成 29 年度の大きな出来事としては、障害者総合支援法に基づく就労継続支援 B 型事業の開設があった。地域の方からの農地活用の申出を受け、事業所の物件探しからスタートしたが、準備は順調に進み、計画通りに事業を開設することが出来た。事業開始後も、関係機関や地域の様々な人達とのつながりを拡大することで、原材料の入手経路や販路の拡大につながっている。今後は、通所者の増加や作業内容の充実をはかり、経営を安定させることが課題となる。

特養にとっては、天皇誕生日を祝し、優良施設として御下賜金拝受の栄ある栄誉は、大変重みのあるご褒美であった。東久留米市東部地域において、23 年間、地域のボランティア並びにご利用者ご家族、地域関係者の方々のご支援ご協力をいただきながら、ご利用者中心の支援を継続してきたことが評価されたものと受け止めている。改めてご支援いただいているすべての皆様に感謝申し上げるとともに、今後も、地道に福祉事業と地域包括ケアの充実・発展に貢献する重責を感じている。

東久留米全体の事業活動では、前年度比で事業収入が 約 2900 万の増額となったが、人件費が約 2080 万 事務費及び事業費も約 780 万 支出増額となった。

経常増減差額では約 1200 万円を残すことができ、就労継続支援 B 型事業開設がありながらこの数字を出せたのは経営安定に向け良い傾向と捉えている。

当期活動増減差額については法人本部へ拠出金約 930 万を支出したのち、プラス約 312 万円という結果であった。

平成 29 年度重点課題について、下記に報告する。

① 緊急事態への対応力を高める

緊急事態に遭遇した場合に、組織としての初動対応を速やかに行う事で、損害を最小限にとどめつつ中核となる事業の継続と早期復旧を目指すため「緊急事態への対応力強化」の取り組みを、過去 3 年間にわたり継続してきた。

29 年度においては、7 月に所在不明者発生時の対策本部設置初動訓練と実地捜索訓練を行った。机上での検討だけでなく、サテライトを除く全事業が参加した実地捜索訓練は初めてであり、介護現場の職員が捜索のために実際に地域を歩く事で、新たな気づきや課題が得られた。認知症高齢者の所在不明発生については、これまでは幸い

大事に至る事例はなかったものの、今後も起こり得ることを想定し対応訓練を重ねていく。

3月には、全事業所において震度6の大規模地震発生時の初動30分間の対応訓練を実施した。大規模地震発生を想定することで、多くの疑問や不安が抽出され、現場のBCPを具体的に見直す機会となった。大規模地震の発生は、切迫性が高く、甚大な被害を受ける可能性が高いことから、平常時に備えておくべき事と、緊急時における事業継続のための手段や方法を具体化し、対応訓練を重ねていく必要がある事を再確認した。

相模原の事件を教訓とした施設の安全管理については、来訪者の識別と外灯の増設、正門、西門、北門に案内を掲示する等の取り組みを行った。次年度の課題として、防犯カメラの増設と安全管理マニュアルの作成に取り組み、施設内の防犯や安全管理に対する職員の意識を高めていきたい。

②通所部門の再編成、地域ニーズに合ったサービス編成と業務効率化

市内に通所介護事業所が43ヶ所あり、そのうち自費の宿泊サービスを実施している事業所が12ヶ所ある中で(H29.11現在)、利用者から選ばれる通所事業所となる事を目標とした。利用者ニーズに合うよう環境改善とプログラム改善を計画したが、いずれも計画通りに進めることが出来ず、稼働率の改善に至らなかった。介護予防と総合事業を実施しているマザアス大門では、利用者の減少が続いているため、調理部門を委託に切り替えることで経費削減をしたが、経営状況の根本的な解決には至らない。通所部門の経営改善については、次年度の最重点課題とする。

③障害者総合支援法に基づいた事業展開

地域の方からの農地活用の申出を受け、事業所の物件探しからスタートしたが、準備は順調に進み、計画通りに事業を開設することが出来た。事業開始後も、生産活動に関して関係機関や地域の様々な人達とのつながりを拡大することで、原材料の入手経路や販路の拡大につながっている。次年度に向けて、今年築いてきた信頼関係を損ねることがないように、商品の品質管理などの仕組みを構築する必要がある。

一方で利用者の登録状況は、登録者18名、終了者5名、見学のみの方5名であった。登録者数は目標達成したが、稼働率という点では目標未達であった。相談支援事業所との連携を深め、丁寧に支援を進めると同時に、生産活動の充実を図ることで登録者数を伸ばしていきたい。

④地域における公益的な取り組み等について

生活困窮者就労訓練事業													
この事業は、平成 27 年度に高齢者福祉総合施設マザアス東久留米が東京都知事の認可を受けて、生活困窮者自立支援法に基づき、生活困窮者を受け入れ就労訓練事業を行うもので第 2 種社会福祉事業である。生活困窮者自立支援事業は、すぐに一般就労はできないが福祉的な就労にも該当しない人が、一般就労をめざして社会参加する場＝中間的就労として位置づけられている。													
平成 29 年度実績（延べ人数）													
月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
人数	3	3	3	3	3	5	5	5	5	5	5	5	50 人

「はたらくサポートとうきょう」													
この事業は、社会福祉法人の事業所が一般就労と福祉的就労の間に位置する中間的就労の「はたらく場」として「はたらきたいけれど はたらきにくい人」を受け入れて、相談支援機関とともに支援をする東京都地域公益活動推進協議会の広域の連携による取組みである。													
平成 29 年度実績（延べ人数）													
月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
人数	7	6	6	5	5	6	7	7	6	7	7	7	76 人

マザアス健康体操													
マザアス健康体操は、地域の方々にいつまでも元気で活躍していただきたいとの思いから平成 20 年に開始し 10 年目を迎えている。月 3 回、介護予防運動指導員を中心に、上下肢の運動、ストレッチやセラバンド体操、シナプソロジーを取り入れた脳の体操まで幅広い体操を行っている。年々、マザアス健康体操の卒業生による自主グループが誕生し、少しずつ体操の輪が地域に広がっている。													
平成 29 年度実績（延べ人数）													
月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
人数	58	56	54	55	51	58	67	59	64	43	52	66	694 人

来所給食													
一人暮らしや高齢者だけの世帯などの理由により、バランスの良い手作りの食事を摂る機会の少ない方々にマザアスに出向いていただき、安価な料金を栄養バランスの良い食事を提供するサービス。天候や体調の不良時には送迎の相談にも応じている。													
平成 29 年度実績													
月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計

食数	31	37	46	51	25	37	32	34	29	21	28	23	394 食
送迎回数	10	9	10	7	10	10	8	3	6	6	8	8	95 回
トークサロン													
地域にお住いの高齢者同士の交流や関係づくりを目的に、平成 24 年 10 月に開始。近隣の民家を借りてスタートしたが、29 年度より、会場をマザアス東久留米 3 階地域交流ロビーに移し継続している。一緒にお茶を飲みながら談笑する縁側のような場所。													
平成 29 年度実績 毎月第 4 水曜日開催、12 回開催。参加延べ人数 95 名													

バスドライブ (過去 3 年の実績)			
日頃マザアスの趣味活動などを支援して下さっている地域の皆様と職員が、年 1 回マイクロバスを借りて外出、交流を図る事でつながりを深める。昼食代のみ実費。			
平成 27 年度	深大寺バスドライブ	参加者：地域の方 15 名	職員 4 名 計 19 名
平成 28 年度	青梅小澤酒造見学	参加者：地域の方 11 名	職員 3 名 計 14 名
平成 29 年度	グリコ(株)工場見学	参加者：地域の方 13 名	職員 3 名 計 16 名

オレンジカフェ「 ^{なごみ} 和」
住民同士の交流や認知症への理解を深める事を目的に、平成 28 年度に開始。認知症サポーター養成講習受講後、フォローアップ研修を修了した方々が主な担い手となり、都営住宅の集会室を会場として、月 1 回ではあるが定期的にカフェを開催。健康や介護、趣味の講座などを企画し、実施している。今後は、認知症の人とその家族、地域住民、専門職等が集い、認知症や健康に関する情報発信や地域交流を進める場として内容の充実を図っていく。
平成 29 年度実績 毎月第 4 月曜日開催、12 回開催。

歌声マザアス
音楽療法士さんの協力により、地域住民が集い楽しく歌う事を通して脳の活性化や住民同士の交流を図る事を目的に、平成 29 年 6 月に開始。歌の好きな方が、誘い合って参加され徐々に定着してきている。
平成 29 年度実績 29 年度は毎月 1 回、曜日を固定せず 7 回開催。今後は毎月第 3 土曜日の開催予定。

地域総合防災訓練

毎年9月にマザアスでの火災を想定した総合防災訓練を実施している。消火訓練と避難誘導訓練、AED操作訓練には、防災協定を結んでいる近隣自治会も参加して、東久留米消防署の助言・指導をいただいている。火災や災害時に、地域の方々と協力し助け合えるよう、平常時からコミュニケーションを図り、定期的に訓練を継続する。

ともいき・マザアスバザー

超高齢化が進み、国の財源に限られる中「地域の助け合い」「仲間づくり」「多世代の交流」等をキーワードに、安心して共に支え合う共生の地域づくりを目指して“ともいき・マザアスバザー”が近隣自治会とマザアスとの共催という形で平成24年度からスタートした。近隣自治会や関係機関のご協力もいただきながら、毎年、盛大に開催されている。平成29年度は、雨天のため縮小開催となった。

2. 特別養護老人ホーム マザアス東久留米／短期入所マザアス東久留米

平成29年度の大きな出来事は、12月に、優良な民間福祉事業として天皇陛下から御下賜金を拝受した事であった。東久留米市東部地域において、23年間ご家族や地域の方々のご支援ご協力をいただきながら、ご利用者中心の支援をするために試行錯誤を続けてきたことが評価されたものと受け止め、今後も、地道にご利用者の生活の質を高めるケアを実践していく。また8月には、開設時から行っている看取りのケアについて、厚生労働省老健局から濱谷局長が来訪、マザアスでの取り組みを視察された。これらの展開は、日々忙しく働く職員にとっても誇らしく、身の引き締まる思いであった。

介護課におけるケアの提供体制を変更してから2年目となる平成29年度は、サービスの提供体制や業務改善にも進展が見られた。毎年、キャリア段位制度におけるレベル認定者を継続して輩出するなど人材育成にも力を注いでいる。看護課による排便調整の取り組みや、機能訓練指導員による介護職員を対象としたトランスファー研修、ご利用者の想いを反映したケアプラン作成や口腔ケアの質向上などの分野で他職種連携も進み、特養部門会議での意見交換も活発になった。

平成29年度の退所者は15人、施設内看取りの方は7名であった。稼働率は97.6%と昨年度より0.1%増となったが、市内及び近隣市における居住系サービスの増加により、実質的な待機者の減少傾向は変わらず、新規入所者の選定に苦慮した結果の数字である。

ショートステイの新規利用申し込みはこれまでと大きな差はない。常連でご利用いただいていた方が、体調不良や入院などでキャンセルとなる事が続いた事が稼働率に影響し83.1%となった。新規申し込み数は大きな変化はないが、介護度の軽い方は、再申し込みが少ない傾向がある。外出行事やレクを増やすなど改善を試みているが、介護度が軽い方にとってのショートステイでの楽しみ方やくつろげる環境をどう整えていくかが課題である。一方で、対応困難な事例であっても他部署と協議し受け入れの幅が広がっており、現場の対応力は向上している。

	特養	ショートステイ	合計
利用定員	80	10	90
利用者数（延べ）	28,489	2,991	—
1日平均利用者数	78.0	8.1	—
稼働率	97.5	81.9	—
稼働日数	365	365	—
平均介護度	4.1	3.2	—
単価（1人1日当り）	12,849円	12,317円	—
総収入	366,082千円	36,842千円	—
職員数（常勤換算）	54.1名	***	

3 デイサービスセンター マザアス氷川台

上半期は前年を上回るまざまずの滑り出しであったが、気温の低下と共に稼働率が低下していき冬場以降は前年を上回ることなく終了した。季節要因は毎年の事であるが今年度は新規利用開始後すぐに入院や施設入所で利用終了となるケースが非常に多かった。

今年度開始早々に、職員による「環境改善」「プログラム改善」のプロジェクトチームを立ち上げ、職員からの発信で『団塊の世代に対応できる質の高いデイサービス』を標榜したが、ともに夏場の業務繁忙期ころからチームとしての活動が滞り始め、結局改善提案が行われぬまま終了となってしまった。職員の自発的な発案も大切であるが外部も交えた強制力がないとなかなか大きく進まない典型例となってしまった。継続課題としたい

5月に機能訓練指導員を新規採用し個別機能訓練対象者拡大に寄る営業貢献を期待したが、諸事情により機能訓練指導員が異動、退職となった。30年度は機能訓練の中身を吟味しながら訓練にあたれるように工夫していく。

認知症対応型デイサービスも一般デイ同様、施設入所が相次ぎ数字を伸ばす事が出来なかった。認知症状の進行から自宅から出かけた後所在不明となる事が相次ぎ、在宅生活自体をご家族が断念されるケースが続いた。来年度はBPSDを緩和するユマニチュードケアの実践を継続するとともに今年度導入できなかった「学習プログラム」をしっかりと取り組んでいきたい。

	介護・予防	認知症対応型	合計
利用定員	39人	12人	51人
利用者数(延べ)	9,339	1,459	—
1日平均利用者数	30.3	4.7	—
稼働率	77.6	39.1	—
稼働日数	308日	308日	—
平均介護度	2.1	2.5	—
単価(1人1日当り)	9,134円	11,575円	—
総収入	85,307千円	16,889千円	—
職員数(常勤換算)	23.0名	***	

4. デイサービスセンター マザアス大門

29年度は、9月頃までは、昨年度をやや下回る程度だったが、それ以降は、要介護利用者のニーズに対応できる環境ではなく、(入浴・長い時間の利用など・・・)他施設へ移行が非常に多くあった。要支援(総合)では、リハビリ専門職が常駐している所への移行があり、予防運動指導員と現場で頑張ったが、利用者を昨年度より増やすまでには至らなかった。

30年度は、総合事業から、支え合いの受け入れを行い、通常利用の利用者とどう人数配分を分けられるか、また、どれくらいのニーズがあるのかも検討してやっていきたい。そして、今できる環境内で、利用者のニーズに応えられる内容を再確認し、少しでも利用率を上げられるようにサービス内容などの見直しをし、安定した利用率を目指していきたい。

	介護・予防
利用定員	要介護10名 要支援9名
利用者数(延べ)	5,532
1日平均利用者数	18.0
稼働率	64.2%
稼働日数	306日
平均介護度	1.5(要介護)・1.7(要支援)
単価(1人1日当り)	7,764円
総収入	42,954千円
職員数(常勤換算)	8.9名

5. ヘルパーステーション マザアス氷川台

平成29年度は、新規相談79件、平均稼働時間は799時間だった。平成28年度の新規35件、平均稼働時間609時間に比べると飛躍的な増加となった。平成28年度より、ヘルパーの働きやすい環境の整備に取り組み、直行、直帰の導入、ヘルパーからの連絡用にフリーダイヤルの導入、事務所不在時のサービス提供責任者への自動転送を行い、ヘルパー時給の見直し、移動費の見直しも行ってきた。また、仕事を受ける体制として、長年にわたり、「基本的に早朝、夜間の仕事は受けない、土日の仕事は受けない、線路を越えたら受けない(中・遠距離は受けない)」ことが当たり前になっていた現状を見直し、「仕事の依頼はすべて受ける、断らない」ことを徹底して取り組んできた結果、1年で徐々に新規相談が増え、平成29年度は例年の3倍以上の新規依頼があり、稼働時間も900時間を超える月があるほど実績を伸ばすことができた。ヘルパーステーションの人員配置は、管理者1名、サービス提供責任者3名、登録ヘルパー14名だが、登録ヘルパーはほとんどが60代後半となっており、人材確保が課題となっている。また扶養範囲内等で働きたいヘルパーがほとんどで、年収の上限を越えないよう仕事の割り振りを行わなければならない、稼働時間の増加とともに調整に苦慮している現状がある。

平均利用者数	介護給付		予防給付		単価(円)		総収入(千円)
	月間訪問件数	年間訪問件数	月間訪問件数	年間訪問件数	介護(回)	予防(月)	
48.9	724.0	8,689	33.8	2,428	2,901	18,547	34,185

6. 居宅介護支援事業所 マザアス氷川台

平成29年度は、休職していた職員1名が復帰し、5名体制でスタートした。職員それぞれが、ケアマネ連の役員、主任ケアマネの更新、定年による雇用変更、休職からの復帰等変化のある1年を過ごしてきたが、業務が滞ることなく地域でのケアマネの役割を果たしてこられた。結果として、当初の計画よりも順調に件数を伸ばすことができた。30年2月には包括からの人事異動により、居宅ケアマネは初めての職員が1名増員となった。3月には管理者の異動があり、主任ケアマネが2名となった。2月、3月の人事異動により、職員が1名増えたことによる事務所内の配置換え、利用者の引継ぎ等であわただしい数か月となったが、30年度の制度改正に向けて、居宅内の連携を見直し、新体制でのスタートを切る準備期間となった。制度改正により、管理者に主任ケアマネを配置すること、特定事業所加算の要件に他法人との事例検討会・研修会の実施が追加となる等、ケアマネジメント業務だけではない事業所全体の資質向上が求められている。個々のスキルのばらつきが課題となっているが、6名体制になり、主任ケアマネが2名となったことで、それぞれが持つ経験、知識、情報を皆が共有できる体制、環境を作り上げていきたい。

年間請求件数		平均単価（円）		訪問調査 年間件数	訪問調査 単価 （円）	総収入 （千円）
介護	予防	介護	予防			
1,802	246	16,475	4,601	45	4,104	31,369

7. 東久留米市東部地域包括支援センター

高齢者の総合相談対応や要支援者の介護予防支援はもとより、地域の自助・互助のしくみを整備するための以下の事業を実施した。認知症対策関連として「認知症サポーター 養成講座」「認知症サポーターフォロー講座」「認知症家族会」の開催。

「認知症カフェ」開設運営の支援。地域のケアマネジャー支援として「地域ケアマネ懇談会」「ケアマネサロン」の開催。地域づくりの取り組みとして「地域ケア個別会議」「第二層協議体」「地域見守りネットワーク会議」の実施など。東久留米市では介護保険制度改正により地域包括ケアシステム構築のため ①在宅医療・介護連携の推進 ②認知症施策の推進③介護予防・生活支援サービスの基盤整備の推進を重点的取組事項としており、平成29年4月より住民が主体となった支え合いのしくみを実施できるように介護予防・日常生活支援総合事業を開始。リハビリ専門職と連携し高齢者の自立支援を行ってきた。

受託収入 (千円)	予防プラン 請求件数	うち、 再委託件数	予防プラン 単価 (円)	総収入 (千円)
37,741	3,689	1,030	4,601	50,114

8. グループホームたきやま

昨年度は職員の入れ替えが多少あり、ご利用者の骨折があったものの稼働率は98.8%と目標を達成していた。支援においては職員の頑張りもあり、ご利用者の入退所なく、骨折での入院はあったものの体調不良面での入院は見られていない。また職員体制という点では安定しており、次年度も継続して安定した稼働率を維持できるよう努めていきたい。職員のスキルアップについては、マザアス全体の研修だけではなく、ホーム内での研修を年4回実施し、外部への研修に行く機会の少ない職員にも勉強の機会を持つ事ができた。重点課題に挙げていた、「公共機関を利用した外出」については、気候や行事との兼ね合いなど予定が合わず実施回数が少なかったため、次年度はできる限りの実施を行いたい。また「地域との交流を図る」については、毎月ボランティアの方との交流ができており、新たに傾聴や散歩等を行うボランティアを2名迎えることができた。重点課題とはしていないが、ボランティアを通じた地域との交流は今後も継続していく。また新規ボランティアの受け入れも継続して働きかけていく。

9. グループホームひかわだい

平成29年度は昨年から取り組んできた職員の質の大幅な改善を図る事ができた。同時に昨年度の純利益に対して198%アップを達成した。セグメンテーション、ターゲティング、ポジショニングといったマーケティングの基本を重視し、方向性を決定し、それを基盤に今のホームの介護力において実現可能なものを迅速に実行するとともに、現場職員の意見を取り入れ意欲を高める様に努めた。「何の為に介護をするか」を職員一人ひとりに考える様に接していき、最も大切な事である法人理念の「人々からしてほしいと望む事は人々にもそのとおりにせよ」を重視し、ユマニチュアードの研修などにおいて実践の大切さを浸透させる様に取り組んできた。しかしながら、その考えに賛同できない職員は退職したが、自ら探してきた新規採用職員たちで、法人理念に則った介護を行う事を目指してきた。結果として年度末には、職員の状態が、人数的にも、質的にも安定した状態になった。さらに、書類の整備に力を入れ、不備が無いように常にチェックを続けることを継続している。

10. グループホームおがわ

29年度は管理者変更から2年目となり、提供内容の充実や職員にも透明性のある運営を心掛けた。7月に転倒による入院が1名。3月に脳梗塞で入院のまま年度末に退所が1名発生。在籍率100%だが稼働率は98.1%で推移した。2月にインフルエンザを利用者2名と職員3名が発症したが拡大は防げた。引き続き、リスクや衛生管理に努めていく。医療面では、看護師を職員として配属できたので訪問看護ステーションとの契約を終了、医療連携体制の強化が図れた。今後は介護職員の観察眼を養い、重症化しない早めの対応を心掛け入居期間の安定を図りたい。また、かねてから地域との関わりを指摘されてきたが近隣の小学校を中心に徐々に交流の機会も増えてきている。今後もボランティアの活用など心掛け、地域に根差した環境作りに努めていきたい。

グループホーム	ひかわだい	たきやま	おがわ
利用定員	9	9	18
利用者数(延べ)	3,245	3,281	6,446
1日平均利用者数	8.8	8.9	17.6
稼働率	98.8%	99.8%	98.1%
稼働日数	365	365	365
平均介護度	2.9	2.4	1.8
単価(1人1日当り)	12,519円	12,137円	13,933円
総収入	40,627千円	39,823千円	89,817千円
職員数(常勤換算)	7.8名	8.0名	15.1名

11 就労継続支援B型事業所 マザアス

地域の方からの農地活用の申出を受け、事業所の物件探しからスタートしたが、準備は順調に進み、計画通りに事業を開設することが出来た。事業開始後も、生産活動に関して関係機関や地域の様々な人達とのつながりを拡大することで、原材料の入手経路や販路の拡大につながっている。次年度に向けて、今年築いてきた信頼関係を損ねることがないように、商品の品質管理などの仕組みを構築する必要がある。一方で利用者の登録状況は、登録者18名、終了者5名、見学のみの方5名であった。登録者数は目標達成したが、稼働率という点では目標未達であった。相談支援事業所との連携を深め、丁寧に支援を進めると同時に、生産活動の充実を図ることで登録者数を伸ばしていきたい。

	平成29年度
登録者数	18名
1日平均利用者数	3.6名
月額工賃(平均)	6,792円

VI高齢者福祉総合施設 マザアス日野

1. 平成 29 年度総括

ここ数年は喫緊の課題であり続けている職員人員不足に伴う対応に、本年度も同様に多くの時間を割くこととなった。

離職率※としては、日野事業所全職員で 17.4%、日野事業所内の介護職員全体で 17.6%、内正規介護職員全体では 18.3%と非常に高い数値となってしまった。離職者内に占める介護職員の割合については、昨年度と大差ない状況であったが、本年度については、介護以外の特定の部署についての離職者が相次いだ。当該部署の一つについては、人員の刷新により新たなスタートを切っており、以後の対応策を講じたところである。

また、特に本年度経済的にも大きな影響を及ぼしたのは、派遣職員の利用に伴う経費の増大であった。従来から、派遣職員の利用は控える事とし、その方針は変えていない。しかし、職員の休職や退職後の補充予定時期までに期間が生じること等に伴い、急きよ一定期間の限定的な欠員が生じる事態が相次いだり、人員配置基準の充足の必要性が生じる事態が生じたりすることにより、拠点内の職員異動でも対応しきれない事態となり、やむを得ず利用に至った。

新規職員の採用経路としては、昨年度に引き続き、職員からの紹介による採用が、全体の 3 割を超えている。採用面においても、継続的に職員の協力が得られていることに改めて感謝したい。他、ハローワークからの採用も 2 割以上あり、それらを含め、今後の採用活動の在り方について検討を図る事とする。紹介業者からの採用も依然として全体の 2 割程度存在する。しかし、今年度の新規採用者は、昨年度よりも増えているものの、紹介業者を利用した採用者は、上記の状況もあり、昨年度よりは減少させることができ、支出も抑えることができた。

離職者の状況を見ると、離職者の内、2 割以上は入職後 1 年未満の職員であった。更に、2 年未満は 4 割以上、6 割が 3 年未満という状況であり、在職期間が短期間で離職に至る状況が明らかになった。これは、本年度の事業計画でも取り組んだ、在職年数の偏在解消に向けた対応を継続する事の必要性を図らずも裏付ける結果となった。

外部審査については、当年度内に東京都と日野市の実地検査を受けた。前者は特養、ショート、デイであり、後者は小規模多機能ホームさかえまちにおいてであった。いずれの実地指導についても、文書指摘は受けたものの、介護報酬の返還等の指摘事項は無かった。但し、さかえまちについては、発生した事故に対する苦情に伴い、国保連からの訪問調査を受けた。当該調査については、年度末時点でフィードバックが得られていないため、終了していないが、大きな学びを得る機会となった。

様々な事業を展開する日野拠点の中でも、小規模多機能ホーム 2 か所及びグループホーム 1 か所（以下、小規模事業所という）を擁することは特徴である。それと同時に、いずれの事業所も、日野拠点内の多くの職員が勤務する万願寺からは離れた距離にある事に伴い、各管理者や職員に対する日常的な業務・内省・精神支援のいずれも行いにくく、サポートが充分には行えていない状況があった。小規模事業所特有のサービス提供の在り方や、

運営の難しさもあり、上記実地指導の際や苦情申立等により、改善課題が浮き彫りとなった。従来から、小規模事業所各部署においても、その価値を意識し利用者に必要とされるサービスを提供し続けているが、それらを維持しながらも、確認された課題を解決し、小規模事業所が日野拠点の強みとなるために、小規模事業所を統括する管理職を配置した。年度後半に配置が実現したため、取り組みとしては始まったばかりである。

全体の収支（事業活動）としては、本部へ 27,407 千円を拠出した上で、39,128 千円の収益を残すことが出来た。人件費率は 72.6%と昨年度比（71.9%）から増加している。各部署共に人員不足を感じていながらも、人件費率が増加していることから、今後収入増が一層求められる。適正な人員を配置した上での収益性を確保する視点を全体で持ちながら経過を見る必要がある。今年度の収益率は、6.7%であった。また、修繕に対する積立は、全体のバランスの中で対応した部分はあるものの、今年度については残すことが出来なかった。次年度以降、短期的に必要な費用を積み立てる必要性が生じる事となった。

※ 離職率の算出方法：当該年度内の離職者数÷（当該年度 4 月 1 日時点の職員数+当該年度内の入職者数）×100
（法人内拠点間異動の職員は含まない・人員数に基づく）

2. サービスの質を向上させる

既述のように、昨年度以上に本年度は人員不足への対応に多くの時間を費やした。しかし、職員の定着と新規獲得には、現状を変える必要があるとの認識の下で取り組んだ。人材育成の部分に関する取り組みと結果は、行動計画部分において後述する。人材定着に対する取り組みとして、資格取得及び更新時の費用に関する法人補助の制度を運用開始した。当該制度の利用者はある程度いたため、劇的な変化ではなくとも、法人からのメッセージとして定着することを期待している。リスクマネジメントについては、ISO 推進会議において、拠点全体を見渡した取り組みを進めることを確認し、次年度から具体的に動き出す予定にしている。

3. 地域と関係を深める

従来から引き続き、あったカフェの運営を継続することで、平均すると 1 回当たり 40 名以上の来客がある。リピーターも多いが、ほぼ毎回新規の来客もあり、口コミ等で知名度も上がっている。8 月に実施した自治会のお祭りでは、マザアスで出店を出したり、防災に関する会合へ出席する等、地域の行事には出席を重ねた。若年性認知症当事者の就労に関する支援については、行動計画部分において後述する。

4. 経営の安定化を図る

支出の減少においては、設備を更新したことによる省エネ効果が得られた程度であり、目ぼしい取組結果は導き出せなかった。人材採用にかかる経費等については、人員の充足を第一目標にしていたこともあり、昨年度比では少なくなっているが、未だに大きな金額が支出されている。

QMS や人材育成に対する取り組みに限定はしていないが、ホームページ上から、施設の

取り組みや出来事等を情報発信することに努めた。新規採用希望者の中には、そちらを見て応募してきた方もおり、一定の効果が確認されている。

4. 固定資産等取得

最も大きな支出となったのは、隣接地取得に伴う費用であった。当初の見込みよりも、土地評価額が上がったため、初期費用としての支出も多くなった。今後、駐車場の利用者負担の見直しも必要になる可能性がある。機械浴槽、汚物除去機、車いす、食器洗浄機、ガスコンロについては予定通りの購入となった。機械浴槽については、東京都共同募金会からの補助金を受給することで、費用負担を減らすことができた。また、当初予定していたブラストチラー及び炊飯器については、大型ミキサーが予定外に更新の必要性が生じたため、そちらを優先させた結果、今年度の購入は見合わせる事となった。

5. 行動計画に対する評価

(1) 拠点内の研修体系の整備

従来から実施している施設内部の研修について、その目的の曖昧さや体系的な統一が成されていない事により、十分な効果が得られていなかった。また、人材確保の困難性がより深刻になる中で、現在の人員を内部で育成する必要性が高いこと、育成機会を対外的な優位性に繋げることを目的に取り組んだ。

各計画に対する実施結果は以下の通りであった。

① 研修理念を作成し、体形的な可視化

研修理念を作成し、それらに基づき、下記基礎研修における各等級における到達度目標を設定し、研修参加の目的の明確化と研修参加により求められる結果について明示した。しかし、それらについての周知が不完全であることが今後の課題となった。

② 拠点内交換研修の実施

本計画に基づく交換研修の実施には至らなかった。しかし、本計画とは別の取り組みの中で、市内特養との介護職員交換研修が実現した。これにより、自身の業務や強み、弱みを客観的に捉える事、他事業所の取り組みの引用等、大きな収穫となったと考えられる。今後は拠点内での交換研修実現に向けて引き続き取り組む。

③ 全職員が受講する基礎研修を実施

予め 6 つのテーマを設定し、毎月ひとつのテーマに関する基礎研修を内部で開催した。各職員は、各テーマについて 2 年間の内に 1 度は研修参加する事として周知した。各職員の研修参加に対する動機づけにはなっているが、既述の到達度目標の達成とリンクした結果の評価が今後必要となる。

④ 副主任以上を対象とした管理職研修を実施

通年で合計 6 回の研修を開催した。当該研修により、参加者自身が管理職やリーダーである事の自覚についても涵養を図った。又、従来年に 2 回開催される法人全体の管理職研修のみであったため、管理職やリーダーとして職務を進めるための基本的な考え方やスキルの獲得に、多少なりとも寄与できたと評価している。今後は頻度を変更したとしても、継

続的に実施することの必要性を感じている。

⑤特養介護課を対象とした介護研修を実施

日々多忙な業務に従事していると見失われることが多い、何故介護の仕事を目指したのか、介護の仕事の価値ややりがいについて再発見することを目指して通年で5回研修を実施した。当初の目的を達成するまでは至っていないが、現在実行している取り組みが間違いないこと、またその方向性の確認や新たな視点やスキルの獲得、他事業所での取組視察等、様々な角度からの示唆を得る事が出来た。今後は、研修実施における負担も考慮の上で実施を検討する。

⑥成果指標

当初、リスクとして想定していた研修参加者の負担増加は、参加者から多少漏れ聞こえてくることはあった。しかし、新たなスキルや学びを得る上ではやむを得ない部分もある。一方で、自己研鑽や学びの場が増える事、各職員に対する育成のメッセージとして捉えられている部分もあり、当初の目的の一部は達成できている。また、職員が研修講師と為る事で得られるスキルアップの機会にもなり、こちらも継続する事で内部での育成サイクルに繋がると考えられる。

概ねスケジュール通りには実施できたが、一部未実施の項目があり、理解浸透も十分とは言えない。既述通りの課題を残す結果となった。

(2) 若年性認知症に関する就労支援

若年性認知症があっても働き続けられるための、就労確保ができる仕組みづくりに取り組んだ。平成29年度は3名の当事者を就労に繋ぐことができたことは成果である。一方大きな課題も見えてきた。当初就労に繋がる制度をつくり、年度末には行政及び企業等と調整し、運用することを目標としていた。しかし事前の調査から、制度は既にある程度揃っているが、活用されていないことが明らかになった。そこで実際に既存の制度を活用してみたが、就労に繋げることは容易ではなかった。

就労に繋げることが難しい理由を考えると共に、何が必要なのかを洗い出しすることとした。より多くの意見を参考にすべく、福祉に精通した学識経験者の方々に参加を依頼し、共にこの課題について話し合った。話し合いの中で見えて来たことは、まずは就労に繋ぐ実績を積み重ねていくことと、その実績や他の実績を分析していくことの必要性であった。就労確保の仕組みづくりは単年度での実現は難しく、時間を要するとの結論に至った。また、この話し合いを今回で終わらせるのではなく、プロジェクトチームとして位置づけ、更に検討を図ることの提案を受けた。

これらの結果を踏まえ、平成30年度はプロジェクトチームを立ち上げることとした。就労に繋げる実績を積み重ねて行くと共に、プロジェクトチームのメンバーと意見交換をしながら、就労確保ができる仕組みづくりに向けて取り組む。プロジェクトチームで話し合われたことをとりまとめ、関係機関、企業等に向けてアウトプットする。まずは、若年性認知症の就労についてスポットが当たることを、単年度の目標とする。

2. 特別養護老人ホーム マザアス日野／短期入所 マザアス日野

<特別養護老人ホーム マザアス日野>

前年度に引き続き、悔いの残らないケアの実現のため、自宅や自宅以外の場所やお好きな場所、地域行事などへ赴き、ケアプランへ反映させていった。また、機能訓練では園芸や屋外活動に力を入れている。

退所件数の半数が看取り介護を実施することができた。ご家族や居住者の意向に沿った最期を迎えられるよう、実践を積み重ね、改善を続けたい。

感染症対応、入院状況、待機者状況など様々な要因を踏まえ、稼働率向上・安定に向けた課題は残る。

<短期入所生活介護 マザアス日野>

感染症対応による受け入れ中止が稼働率の大幅低下の要因となった。しかし、該当月が例年並みの稼働であったとしても、前年度より低下していたものと推測された。

稼働率低迷は数年継続していることから、抜本的な対応が必要である。

	H29 特養	H28 特養	H29 ショート ステイ	H28 ショート ステイ
利用定員	102 名	102 名	18	18 名
利用者数（延べ）	36,408	36,415 名	4,485 名	4,862 名
1 日平均利用者数	99.7 名	99.7 名	12.2 名	13.3 名
稼働率	96.2%	94.96%	68.3%	74.6%
稼働日数	365 日	365 日	365 日	365 日
平均介護度	4.1	4.1	3.2	3.1
単価（1 人 1 日当り）	12,816 円	12,392 円	12,566 円	12,271 円
総収入	466,626 千円	451,289 千円	56,360 千円	59,666 千円
職員数（常勤換算）	70.8	66.7	8.0	10.0

3. デイサービスセンター マザアス多摩川苑

平成 29 年度は平成 28 年度と同様に権利擁護の意識を職員に持ってもらい、質の高いサービスの提供を目指した。まだまだ、権利擁護の意識の薄い職員がいるが、割合としては減ってきている。最終的には全くなしにしなければならない。権利擁護の意識を持つことは平成 30 年度も引き続き目標として掲げていく。平成 29 年度も平成 28 年度同様に職員の欠勤や病気による長期欠勤等で、思い切り新規を受け入れることができない時期があった。二人の職員が長期間に渡って欠勤や当日欠勤が続いた為に、二人の職員を抱えながら人材派遣職員を延べ 5 人雇用した。そのことにより、人件費が平成 27 年度と比較すると増大した。結果収支差額がかなり減収になった。この 1～2 か月で職員は安定してきて、欠勤も少なくなった。平成 30 年度はデイ単体での黒字化に向けて、稼働率を上げ収入を増やし、経費を抑えていきたい。平成 30 年度の改善テーマが「サービスの質を向上させることで収益を上げていく」であるので、質の高いデイサービスを目指していく。キーワードは安全性（正確性）・安心感・柔軟性・共感性・好印象である。

	H29 介護・予防・総合事業	H28 介護・予防・総合事業	H29 認知症対応型	H28 認知症対応型
利用定員	45	45	12	12
利用者数（延べ）	10,594	10,787	2,007	2,449
1 日平均利用者数	34.1	34.4	6.4	7.8
稼働率	75.8%	76.4%	53.3%	65.0%
稼働日数	311 日	313 日	311 日	313 日
平均介護度	1.9	1.8	3.7	3.5
単価（1 人 1 日当り）	11,415 円	11,000 円	14,213 円	12,978 円
総収入	120,935 千円	118,658 千円	28,527 千円	31,785 千円
職員数（常勤換算）	15.6	15.3	6.2	6.6

4. ヘルパーステーション マザアス多摩川苑

年度の後半は利用時間が増えてきており、普段の努力が実現しつつあると感じられた。人材確保はなかなか難しく、興味をもたれて入職するも、離職もあってヘルパーの増員には至っていない。その為サ責等の業務が現場に集中してしまい、本来の調整、指導等の業務に支障が出てしまう。今後も募集の努力は続けていかねばならないが、手段の工夫を皆で模索してゆく。包括や居宅への訪問は確実に増やしており、現在12か所の包括・居宅から業務の委託を受けている。総合事業では収入額は減っていても、要介護者のサービスが、身体介護に移ってきており、件数の減少に比べ、収入額は前年度を

介護給付			予防・総合事業給付		単価（円）		総収入 （千円）
平均 利用者数	月間 訪問件数	年間 訪問件数	月間 利用者数	年間 利用者数	介護 （回）	予防 （月）	
26.3	333	3,999	27.6	332	3,702	16,202	20,755

5. 居宅介護支援事業所 多摩川苑

ケアマネが一人法人内異動。新人が入職。引き継ぎを順調に行うと同時に、新規利用者を多数獲得（年間57件の相談）したが、他利用者が入院や入所、亡くなる方も多かった。ケアマネの仕事に対して心身の疲労がクローズアップし、考えさせられた年でもあった。事業所内でお互いにフォローし合うことが求められる。様々な案件を担当し、経験を積み、業務を遂行することでスキルアップを図れるのではないかと。勉強会にも力を入れ、具体的に（立位で、ホワイトボードやパワーポイントを利用して等々）方法話し合った。外部からも講師を招いて話をする機会を設けたい。

年間請求件数		平均単価（円）		訪問調査 年間件数	訪問調査単価 （円）	総収入 （千円）
介護	予防	介護	予防			
1,483	431	12,866	4,276	95	4,320	21,235

6. 日野市地域包括支援センター 多摩川苑

昨年につき、多世代・多機関で集うユニバーサルカフェ「たまカフェ」「夜のたまカフェ」を開催した。分野を越えたつながりを持つ事で、高齢者や福祉に限定されない地域づくりを進める事ができた。また、認知症サポーター養成講座受講後の実践の場として、「わんわん見守り隊」「たまっと見守り隊」を結成した。「地域で見守る」意識が形となり、高齢者や認知症の方への理解も進んだ。

今後は「夜のたまカフェ」において、地域課題をあぶり出し課題解決に向けた取り組み

(地域ケア会議の位置づけ)を行っていく。合わせて、見守り隊の隊員を増やし、地

受託収入 (千円)	予防プラン 請求件数	総合事業プラン 請求件数	予防プラン 単価 (円)	総収入 (千円)
28,283	1,140	969	4,751 475 (委 託)	34,290

内訳)

【受託収入】

業務委託 : 27,100,000
インセンティブ : 1,000,000
認定調査 : 181,440
施策住宅改修 : 2,000

【プラン料】

予防プラン料 : 4,349,024 円
総合事業プラン料 : 758,466 円

7. グループホーム たまだいら

研修については少しでも出席率を高める為、業務ミーティング時に行った。開催数は予定より1つ少ない結果となったが、出席率は84.6%と目標値を上回る結果となった。また、今年度は研修報告書も提出するようにし、少しずつではあるが知識が高まっているといった報告が多くされていた。

定期的な残業廃止に伴い、職員配置や業務の見直しを実施。定期的に職員からの意見聴取も行い、改善を図り残業廃止に成功している。ただ、利用者の状態等によって職員配置や業務の見直しが必要になる時期が来るとされる為、常に状況を確認していきたい。

稼働率は98.1%と昨年度比べ良い数字となった。要因としては、入院が少なく利用者の健康管理についても往診医や訪問看護と連携して、事業所で対応出来たことが上げられるが、そこには、日頃からの職員一人一人の気づきにより、適切に医療に繋がれたところが大きい。職員のスキルが上がってきたことで稼働率が維持向上してきた事は事業所の大きな成果である。

今後の課題としては、H29年度は黒字化に成功。高い稼働率の維持と職員配置や業務見直しに伴う人件費削減が大きな要因だが、H30年度も黒字化を維持すると共に、問題になっている夜勤体制も合わせて定期的な見直しによる改善を継続していきたい。また、職員主催による内部研修が、講師側にも受講側にもメリットが多かったため、継続するだけでなく、勉強する良い機会としてよりメリットの高いものにしていきたい。

グループホームたまだいら	H29	H28
利用定員	9名	9名
利用者数(延べ)	3,225名	3,183名
1日平均利用者数	8.8名	8.7名
稼働率	98.1%	96.9%
稼働日数	365日	365日
平均介護度	2.5	2.4
単価(1人1日当り)	14,965	14,746
総収入	48,265千円	46,937千円
職員数(常勤換算)	6.5	7.6

8. 小規模多機能ホーム みなみだいら

今年度の通い、宿泊、訪問の各実績数はどれも前年度を上回る結果となった。これは、登録利用人数及び集客率の年間通しての安定した推移が要因といえる。総収入も UP。変わらずスタッフ確保の面で苦慮しているなか、このような結果を残せたことについては、一定の自負はある。

ただその一方で、幅広いニーズに応えようと、利用パターンの多様化を進めた結果、事業所内外にそれぞれ人員を多く割かなければならない状態であり、平均要介護度や医療依存度が高値であることもあって、事業所の持ち合えず提供力をゆうに超えた サービス量となっていることが現状。

サービスの質の維持や向上は、目指しつつ、業務改善や効率化を図るほか、家族(支援者)の介護力や地域資源をさらに活用したサービスの組み立てが次期課題といえる。引き続き、利用者や地域から求められる事業所を目指し、日々精進していきたい。

小規模多機能ホームみなみだいら	H29	H28
登録定員	29名	29名
通所利用者数(延べ)	4,788名	4,666名
通所利用者数(1日平均)	13.1名	12.8名
宿泊利用者数(延べ)	1,994名	1,909名
宿泊利用者数(1日平均)	5.5名	4.7名
訪問利用者数(延べ)	8,378名	5,886名
訪問利用者数(1日平均)	23.0名	16.0名
登録者平均介護度	3.50(年間)	3.53(年間)
平均単価(1人1日当り)	6,257円	7,093円
総収入	94,865千円	87,883千円
職員数(常勤換算)	13.3	13.2

9. 小規模多機能ホーム さかえまち

今年度は目標登録人数 24 名に対して、年間平均 22 名であった。目標達成できなかった要因としては、通いの定員 18 名の中、連日定員いっぱいであり、かつ人員不足もあり、問い合わせはあるものの受け入れができない状況であったことが挙げられる。

日野市からの実地検査があり、指導を受けた。指摘された主な事項として、介護支援専門員の業務の適正化を求められた。これに対しては、拠点内の他部署より介護支援専門員の異動によって、専任の介護支援専門員を配置し、滞っていた介護支援専門員業務を整理し、適切に行えるようになった。

4 月より不足していた人員が補充される予定なので、来年度は目標に向かって、業務改善を図り、受け入れ体制の整備し、選ばれる事業所づくりへ邁進していった

小規模多機能ホームさかえまち	H29	H28
登録定員	29	29
通所利用者数（延べ）	4,269	5,098
通所利用者数（1 日平均）	11.7	13.9
宿泊利用者数（延べ）	1,081	1,660
宿泊利用者数（1 日平均）	3.0	4.5
訪問利用者数（延べ）	4,555	5,369
訪問利用者数（1 日平均）	12.5	14.6
登録者平均介護度	2.8	2.6
平均単価（1 人 1 日当り）	8,437 円	7,119 円
総収入	83,571 千円	86,341 千円
職員数（常勤換算）	10.9	10.5

10. 東京都多摩若年性認知症総合支援センター

東京都より事業を委託され、2年目を迎えた。相談対象者の約半数が60歳未満の現役で働いている世代である。病気により働けなくなることによる経済的問題が大きい。若年性認知症の当事者及びその家族が生活に困窮しないよう、社会保障に繋ぐ支援を行っている。29年度は全相談者の支援経過を定期的に振り返り、確実に社会保障へ繋ぐことができているかチェックする仕組みを構築した。支援の取りこぼしに気づくことができ、有効に機能していることから、今後も継続とする。

経済支援の一環として、退職を余儀なくされた人を再就職に繋げる支援も行っている。29年度は3名の方が再就職に繋がった。この実践を踏まえ、再就職するには何が必要なのかを検討すべく、外部の学識経験者の方々と話し合いの場を設けた。今後も若年性認知症の就労支援の実践を積み重ねると共に、第三者による客観的な意見を取り入れながら、就労の仕組みづくり構築を目指す。

多摩地区を中心に関係機関からの講演依頼を多数受けた。若年性認知症についての関心が高まって来ていることを実感した。当センターの存在や支援内容の周知は必至であり、いずれの依頼も断らず、年間40回の講演を行った。いずれの講演も、若年性認知症について理解が深まったとの評価を受けている。一方、周知の努力はしているが、これが実際の相談に繋がっているかは把握できていない。今後も講演の依頼があれば応じる予定であるが、効率的に周知できる方法についての検討も必要である。

若年性認知症はまだまだ支援の仕組みや関係機関の理解が十分ではない。前例がないと言われることも日常である。前例がないからこそ、柔軟な発想をもちながら、支援の仕組みの構築に努める。

総収入（返還後）	職員数	新規相談者数	相談者実数	相談件数（延べ数）
22,971,747円	3人	97件	480件	2525件

VII地域密着型複合施設 マザアス新宿

平成 29 年度総括

地域包括ケアシステムの推進を始め地域に貢献することを目標に取り組んで来ました。地域の方を対象とした認知症セミナーや、地域の方と協同でイベントを開催したり、職員が地域にボランティアとして出向いたりするなど、前年度同様に、その交流は深まりました。地域の方から声をかけていただくことも増え、顔と顔の繋がる関係性がより構築されつつあります。

もう一つ大きな目標として取り組んで来た職員の定着の改善についてはまだまだ課題とされています。次年度も職員研修や現場職員の自主性を発揮できる職場づくりを実施するなど職員の意識改革とモチベーションアップに取り組めます。

これらのことを踏まえ、29年度の事業計画で掲げた内容については、以下の通り報告をします。

(1)施設全体における新たな人材育成の整備

29年度も研修計画に基づき内部研修に力を入れて来ました。外部研修はもとより、中堅職員が講師を担うなど、キャリアアップに繋がる取り組みが一步前進しました。実践発表会の実施、外部研修など、ほぼ計画通りに進めることができた他、プリセプター制度も有効に行い、新人の育成も充実して来ました。更に事業計画の進捗管理も毎月ユニット単位で実施し、職員一人一人が目標を意識できるようになって来ました。各サービス部署の連携もユニット異動やサービス部署の異動も伴い連携して育成定着するよう図りました。

資格取得は、介護支援専門員については数名合格者を出すことができましたが全てのサービスで配置が義務付けられているにも関わらず、資格所有者が極めて少なく、今後の大きな課題となっています。

人材確保については大きな改善には至りませんでした。これはマザアス新宿に限らず、介護業界全体として人材不足の問題があることも大きな課題であります。多様な人材の確保、また他分野からの人材を育てる仕組みづくりの必要性を感じます。

(2)経営改善

29年度は特養、ショートステイ、グループホーム、小規模多機能が目標に対して稼働率を下げる結果となりました。特養においては平均介護度 4.6 であることから、入院、死亡による退所も多く、グループホームも利用者の看取りを行うなど、入退所の対応が求められました。施設利用のニーズに対する職員の意識も高く、大きく稼働を落とすことなく対応できました。小規模多機能についても入退所も多く稼働率のアップに大きくは結びつきませんでした。来年度はより稼働率アップを実現していきます。より収入を上げて行くと共に、超過勤務を減らす等、人件費率の安定に努めます。

(3)地域貢献

ボランティアコーディネーターの働きかけが功を奏し、今年も地域との関わりが深まりました。社協主催の認知症ボランティア講座の影響もあり新規のボランティアも増えた他、これまで施設内のイベントに地域の方が参加下さるようになりました。

逆に地域の地域見守り安心カフェに出向いたり、高齢化率が50%を超えた団地のイベントの支援を行ったりするなど職員の地域交流の意識の高まりにより、地域の方から声をかけていただけるようになって来ました。新宿区社会福祉協議会との連携も深まり、地域の困りごとに対応できるための情報発信が一步前進しました。社会福祉法人として地域貢献を使命とし、認知症ケアパスを構築し、マザアス新宿が地域をつなぐ社会資源として在るよう更に地域包括ケアシステムの構築に寄与できるよう取り組んでいきます。

2. 地域密着型特別養護老人ホーム マザアス新宿／短期入所 マザアス新宿

マザアスカフェでは、各ユニット、看護課、栄養課で講習会を実施できました。参加者はそこまで多くいみせんでしたが、それぞれで参加型や地域住民に興味があるような内容を考え実施しました。職員も講師をすることで、いろいろ調べたり、人前で話すことの難しさを感じたりと良い経験になりました。定期的な趣味活動は、ユニットに来てくれているボランティアに協力してもらい、入居者が楽しめるような趣味活動を実施できました。施設の行事などには地域の方も参加し施設内の交流は進んでいるが、まだまだ地域に出向く回数が少ない。外に出ていく回数を増やし、いろんな世代の方と交流していきたい。また、各ユニットの趣味活動も、現在は特養内だけで行っているため、今後は地域の方にも参加してもらえるようにしていきます。

厨房主催の食レクは月に一回は、実施出来たが厨房職員と入居者の交流はあまりできていなかったため、来年度も継続していきます。

	H29 特養	H28 特養	H29 ショートステイ	H28 ショートステイ
利用定員	29名	29名	3名	3名
利用者数(延べ)	10,340名	10,481名	949名	962名
1日平均利用者数	28.3名	28.7名	2.8名	2.43名
稼働率	97.7%	99.03%	86.6%	87.7%
稼働日数	365日	365日	365日	365日
平均介護度	4.6	4.6	4.6	4.6
単価(1人1日当り)	15,682円	16,517円	14,814円	14,849円
総収入	170,804千円	173,122千円	14,199千円	14,285千円
職員数(常勤換算)	19.9名	18.8名		

3. グループホーム つつじ

平成 29 年度は若年性認知症の退所支援と引き続き看取り対応を行いながら、新入居者 5 名の新たな個別支援の模索から始まる 1 年でした。昨年度スタートした新宿区内グループホーム連絡会は 2 ヶ月毎に毎回他グループホームに出向き地域課題共有と、具体的に現状の問題点を話し合い、稼働率や空室状況も事業所間にて把握し、入居を急ぐ方を区域内で検討、入居に繋ぐ協力体制を作りました。また、職員教育のため、各事業所に交流研修を提案し課題抽出しました。今年度は新宿区内グループホーム職員の交換交流研修の実践予定です。

29 年度事業計画では、地域の多世代を繋ぐ役割と共に当グループホームを地域に開き、地域の拠り所にしたいという思いのもと実践 2 年目となります。

地域における認知症の可視化のあり方の模索含め、引き続きブログによる日常の発信を行っています。29 年度事業計画の核としては、戸山ハイツに住まう若年性認知症の当事者の描く絵画展をグループホーム企画として実践しました。

家族会ではなく、カフェではなく“当事者の会をこの地域で作りたい”とする当事者の思いをどのように繋ぐかのトライアルでした。新聞掲載依頼も功を奏し 253 名の来場者がありました。一般、区内に住まう若年性認知症当事者、サポーターなど多くが集まりました。絵画展に関しては“楽しい”と思えることで、地域の多世代と繋ぐ企画としました。また、多世代解釈のなかに障害者や子育て支援中の方々を緩やかに協力体制願いすることによって、30 年度の新しい地域交流企画も生まれ始めています。総合事業 2 型をスタートした地域の企画に協働企画参加し、入居者のかたがたが先生として地域に教える側にまわってもらいながら、ここマザアスが、地域の若手で志ある方をボランティアの立場ではなく地域で活躍できる人として育てていける場としての役割も果たしていきたいと思っています。

グループホーム	H29	H28
利用定員	18 名	18 名
利用者数 (延べ)	6,425 名	6,495 名
1 日平均利用者数	17.6 名	17.7 名
稼働率	98.0%	98.6%
稼働日数	365 日	365 日
平均介護度	3.2	3.1
単価 (1 人 1 日当り)	14,471 円	14,839 円
総収入	94,271 千円	96,383 千円
職員数 (常勤換算)	14.0 名	16.8 名

4. 小規模多機能ホーム さくら

今年度は「地域交流の定着化」と「情報発信」「認知症への理解向上」の三つの項目を柱として取組んで参りました。

まず、「地域交流の定着化」についてですが、新宿5～7丁目サロンへの職員派遣は軌道に乗り、職員間でも「地域に出ていく」という考え方が定着してきており、職員の地域への関心も増大しています。但し、地域ニーズを把握するには至っていない為、今後も派遣を継続し更なる信頼関係を構築していく事が必要かと思われます。この点につきましては次年度以降も継続していくものと致します。

次に、「情報発信」についてですが、小規模多機能型居宅介護の説明会につきまして、当初はマザアスカフェにおける説明会のみを想定していましたが、社会福祉協議会から「新宿区成年後見制度研修」の一環として、また、戸山地区南自治会の自治会長から近隣のサロンにてそれぞれ小規模多機能型居宅介護の説明依頼がありました。このように、小規模多機能型居宅介護について、関係事業所や地域住民からの関心が増大している状況が伺えます。上記同様、この点につきましても上記同様次年度以降も継続していく物と致します。

最後に、「認知症への理解向上」についてですが、平成30年に入ってから「リーフレット」の配布を開始致しました。現時点で5箇所に配布致しましたが、それ以外にも近隣サロンでの小規模多機能型居宅介護の説明時やマザアスカフェにおいても配布しております。2月に行われた「マザアス新宿実践報告会」において、この活動についての報告を行った所、同様の形で「小規模多機能型居宅介護の理解を深められるようなツール」が欲しいとの声が地域住民よりありました。次年度以降は今回作成したリーフレットを継続して配布していく事はもちろんですが、小規模多機能ホームさくら自体の認知度を上げる為のツールを作成・配布していきます。

小規模多機能ホーム	H29	H28
登録定員	29名	29名
通所利用者数(延べ)	4,379名	4,337名
通所利用者数(1日平均)	11.8名	11.8名
宿泊利用者数(延べ)	1,725名	1,415名
宿泊利用者数(1日平均)	4.7名	3.8名
訪問利用者数(延べ)	4,236名	3,968名
訪問利用者数(1日平均)	11.6名	10.8名
登録者平均介護度	2.5	2.2
平均単価(1人1日当り)	7,220円	8,148円
総収入	74,813千円	70,798千円
職員数(常勤換算)	13.1名	13.4名